

所 報

一九九一年一月から二月末までの期間における社会科学研究所の主要な活動は以下のとおりである。

一 機構および人事

(1) 所員総会

1 第五七回定例所員総会（六月八日、神田校舎八A会議室）

議事 (1)矢吹満男所員を議長に選出し、(2)麻島所長の挨拶のあと、(3)新所員、研究参与、特別研究員、新運営委員の委嘱の報告があり、続いて(4)一九九〇年度事業報告ならびに決算報告、会計監査報告が承認され、(5)一九九一年度事業計画案ならびに実行予算案が原案通りに承認決定された。この結果、本年度はプロジェクト研究がみあわせられることになり、また夏季合宿集中研究会を取り止めて、川崎市を対象とした地域研究・工場見学を実施することになった。そのほか、新しい『月報』投稿規定が承認され、事務局員交通費が引き上げられることになった。なお、グループ研究のあり方

（申請件数、メンバーの構成、謝礼の支払いなど）についていくつか問題が提起されたので、事務局で検討することになった。

2 第五八回定例所員総会（二月七日、神田校舎八A会議室）

議事 (1)浅見和彦所員を議長に選出し、(2)麻島所長の挨拶のあと、(3)新所員の委嘱の報告があり、続いて(4)一九九一年度事業経過報告ならびに実行予算経過報告、事務局活動報告が承認され、(5)「社会科学研究所四〇年史」（仮題）の編纂とその他の特別補助金の申請が承認決定され、(6)一九九一年度事業計画案ならびに要求予算案が原案通り承認決定された。この結果、やむをえない理由がある場合には、一年間に限りグループ研究の中断・延期が認められることになった。討議のなかで、定例研究会への所員の積極的な参加が要請され、「社会科学研究所四〇年史」（仮題）の編纂についても活発な意見がかわされた。また、『月報』への外部からの投稿の可否について問題が提起されたので、事務局で検討することになった。なお前回総会で提起された問題については、①一人二件に限り研究助成の申請者になることができる、②グループ研究のメンバーが内部の研究会において報告した場合には謝礼を支払うことはできない、③研究助成を受けた者は年一回事後報告として研究経過報告書を提出しなければならぬ、との事務局提案が承認決定された。

(2) 運営委員会・事務局の構成

(1) 一九九一年度の運営委員は、所長麻島昭一所員、事務局長高橋祐吉所員、第一部長玉垣良典所員、第二部長加藤佑治所員、第三部長加藤幸三郎所員（以上第五六回総会で選出）、経済学部長西岡幸泰所員、前事務局局長泉武夫所員のほかに、常行敏夫所員（経済学部）、古川純所員（法学部）、伊東洋三所員（経営学部）、大西勝明所員（商学部）、柴田弘捷所員（文学部）の一二所員によって構成されている。

(2) 事務局は、麻島所長、高橋事務局長、西村弘所員、野口旭所員（以上財政担当）、作間逸雄所員、福島義和所員、川村晃正所員、池本正純所員、毛塚勝利所員（以上研究会担当）、鈴木直次所員、石塚良次所員、加藤浩平所員、広瀬裕子所員（以上編集担当）、村上俊介所員、作間逸雄所員（兼任）（以上文献資料担当）、吉田雅明所員、石塚良次所員（兼任）（以上パソコン担当）の一五所員によって構成されている。

(3) 所員、研究参与等の移動

(1) 所員 土生田純之（文学部）、山中尚（経済学部）、藤山雅博（商学部）、中川敬司（経営学部）の四氏は四月一日付けで、浅見和彦（経済学部）、嶋根克己（文学部）、多辺田政弘（経済学部）、吉田雅明（経済学部）の四氏は五月一日

付けで、井上裕氏（経営学部）は六月一日付けで、田中貞夫氏（経済学部）は七月五日付けで、斎藤雄志（経営学部）、辻達也（文学部）の二氏は十二月一日付けで、それぞれ運営委員会の議を経て所員を委嘱された。芥川集一所員は九月二日に逝去された。

(2) 研究参与 三輪芳郎前所員は運営委員会の議を経て六月一日付けで研究参与を委嘱された。平館利雄研究参与は四月二十六日に逝去された。

(3) 所外研究員 小林義雄所外研究員は本人の申し出により所外研究員を解嘱された。

(4) 特別研究員 高梨健司（専大大学院経済学研究科博士課程修了）、矢吹芳洋（同法学研究科博士課程修了）の二氏は、運営委員会の議を経て五月一日付けで特別研究員を引き続き委嘱された。

以上により、第五八回定例所員総会時における所員は一三七名、研究参与は一五名、所外研究員は七名、特別研究員は二名となった。

二 研究調査活動

(1) 定例研究会

(1) 五月一八日（土）一一時、神田社研

テーマ 「企業向けサービス価格指数について」

報告者 鍋谷秀子氏 (日本銀行調査統計局)

(2) 六月一九日 (水) 一四時四〇分～生田社研

テーマ "Depleting Water Resources and Its Implication for Future Ag. Production in the United States"

報告者 Prof. Bob Lansford (New Mexico States University)

Prof. Clyde Eastman (New Mexico States University)

通訳 森 宏所員

(3) 六月二二日 (土) 一三時～神田校舎二〇二教室

《外国人労働者問題シンポジウム》

司会 毛塚勝利所員

パネラー(1) 上林千恵子氏 (江戸川大学講師、元東京都労働研究所研究員)

「実態調査結果について」

パネラー(2) 宮島 喬氏 (お茶の水女子大学文教育学部教授)

「社会学の立場から」

パネラー(3) 岡 伸一氏 (大分大学経済学部教授)

「経済学の立場から」

(4) 六月二九日 (土) 一一時～神田二二A会議室

テーマ 「イギリスの社会福祉事情―里親制度を中心に―」

報告者 宇都榮子所員

◎人文科学研究所との共催

(5) 七月六日 (土) 一四時～神田二二A会議室

《鈴木直次著『アメリカ社会のなかの日系企業―自動車産業の現地経営―』合評会》

評者 公文 溥氏 (法政大学教授)

浅見和彦所員

(6) 一〇月一五日 (火) 一四時四〇分～生田八四二会議室

テーマ "Marx, Engels and European Democracy: 1848/1989"

報告者 Dr. Terrell Carver (University of Bristol)

◎グループ研究「現代社会の学問的課題」との共催

(7) 一〇月二六日 (土) 一一時～神田社研

テーマ 「旧東独地域の経済再建と労働市場政策」

報告者 Dr. Gerhard Bosch (Institute of Work and Technology at the Science Center North-Rhine-Westphalia)

通訳 加藤浩平所員

◎グループ研究「フェルナンブローデルと世界経済」との共催

(8) 一一月四日 (月) 一六時～神田二二A会議室

テーマ「ローザの現代的意義」

報告者 Jan Dzielwsky (ポーランドの経済学者)

通訳 加藤浩平所員

◎グループ研究「現代社会の学問的課題」との共催

(9) 二月一三日(金) 一四時〜神田社研

テーマ「西欧の発展と第三世界―ゼンクハースの議論をめぐって―」

報告者 近藤正臣氏(大東文化大学教授)

◎グループ研究「フェルナンリブローデルと世界経済」との共催

報告者 近藤正臣氏(大東文化大学教授)

◎グループ研究「フェルナンリブローデルと世界経済」との共催

(10) 二月一九日(木) 一四時三〇分〜生田第四会議室

《三輪芳郎編『現代日本の産業構造』合評会》

評者 玉垣良典所員

栗木安延所員

◎グループ研究「金融自由化と金融再編成」および「日・米・欧における企業行動の研究」との共催

・米・欧における企業行動の研究」との共催

(2) 特別・合宿集中研究会

(1) 春季合宿集中研究会・工場調査(三月五日〜七日)

三月五日(火) 一八時〜博多グリーンホテル会議室

研究テーマ「新日鉄八幡の合理化・リストラクチャリングの展開と現況」

報告者 (1) 戸田季久雄氏(朝日新聞社西部本社経済部)

報告者 (1) 戸田季久雄氏(朝日新聞社西部本社経済部)

(2) 松村茂雄氏(同 右)

三月六日(水) 八時半〜一八時 八幡製鉄所および関連

事業調査

(1) 八幡製鉄所概要説明・工場見学

(2) ヴィラノヴァ大谷(有料老人ホーム)・サンヴィラ概要説明・見学

(3) スペースワールド概要説明・見学

(3) スペースワールド概要説明・見学

(3) 特別研究会

七月二四日(水) 一〇時〜KSP(神奈川サイエンスパーク) 会議室

研究テーマ「研究開発都市・川崎の課題」

報告者 (1) 中島 清氏(横浜市立大学経済研究所教授)

「川崎市の産業構造の変化」

(2) 木村 宏氏(㈱KSP交流事業部長)

「川崎市の産業政策とKSPのコンセプト」

崎市の産業政策とKSPのコンセプト」

KSP館内、マイコン・シティー・パートII、㈱コア

総合研究所の見学

(4) グループ研究助成

一九九一年度は下記の三件(1)〜(3)を継続して助成したほか、新たに五件(4)〜(8)(助成A―四件、助成B―一件)助成した。助成額はAは一件あたり五〇万円、Bは二〇万円と

した。なお、研究助成Aに対しては、グループのメンバーのうち、一人以上の所員が当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

〈研究助成A〉

- (1) 「カントリーリスクの実証的研究——国家の自由度・安定度調査」(八九年度発足)

(古川〈責〉・小林(直)・隅野・小沼・石村・大浜・森川・内藤(光)の八所員)

- (2) 「フェルナンロブローデルと世界経済」(九〇年度発足、以下同じ)

(常行〈責〉・大庭・作間・福島(義)・松浦・村上・望月(清)・八林の八所員)

- (3) 「一九三〇〜一九五〇年代の思想的・文化的・政治的研究」

(榮澤〈責〉・大谷・深沢・佐藤(恭)・広瀬・伊吹・藤山の七所員)

- (4) 「金融自由化と金融再編成」(九一年度発足、以下同じ)

(吉田(震)〈責〉・熊野・加藤(幸)・加藤(佑)・福島(義)・井上・野口・池本の八所員)

- (5) 「日・米・欧における企業行動の研究」

(奥村〈責〉・大西・黒川・伊吹・赤羽・柳・前田(和)の七所員)

- (6) 「現代社会の学問的課題」

(内田〈責〉・高橋・澤野・石塚・村上・矢吹の六所員)

- (7) 「地域社会の比較研究」

(米地〈責〉・柴田・宇都・広田・嶋根の五所員)

〈研究助成B〉

- (8) 「国民経済計算—SNAの課題—」

(作間〈責〉・黒川・田路(研究参与)の三名)

(5) 個人研究助成

一九九一年度は下記の七件を助成した。助成額は一件あたり一五万円とした。なお、この助成には、原則として交付年度より起算して三年以内に、本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

- (1) 加藤佑治所員「派遣労働に関する理論的・実証的研究」

- (2) 平田和一所員「フランスにおける行政裁判」

- (3) 二瓶 敏所員「戦後日本資本主義の再生産構造の研究」

- (4) 加藤浩平所員「EC統合およびドイツ統一に伴うドイツの経済構造の変化に関する研究」

- (5) 鶴田俊正所員「継続的取引慣行に関する調査研究」

- (6) 澤野 徹所員「ヨーロッパ社会思想—特にドイツ社会思想—の研究」

- (7) 堀江洋文所員「エリザベスI世期初頭のイリー司教区

における聖職者の教育水準とピューリタン
攻勢について」

三 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

一九九一年は三三〇号から三四二号までを刊行した。

三三〇号（一九九一年一月）

福島新吾所員「イラク・クウェート問題の背景」

古川 純所員「湾岸危機を利用する自衛隊『派兵』の違憲
性」

三三一号（一九九一年二月）

溝田誠吾所員「関連多角化戦略と事業部制の導入——戦後

造船経営史(2)」

三三二号（一九九一年三月）

森 宏所員「『国際化』とは何だろう——個人的体験に
基づいて」

松浦利明所員「国際学会開催を手伝っての感想」

三三三号（特別号）

「専修大学社会科学研究所創立四〇周年記念研究集会」

吉澤芳樹所員「内田義彦の学問世界——『日本から日本へ』

の経済学史研究——」

長 幸男氏（東京外国語大学名誉教授）「内田義彦と日本

の経済思想像」

小沼堅司所員「社会主義と市民社会——内田義彦氏の所説に
触れて——」

三三四号（一九九一年四月）

魏 宏運氏（南海大学歴史系教授）・笠原十九司氏（宇都宮

大学教授）「呉店村を事例とした中国農村変

革の歴史」

波津博明氏（読売新聞外報部）「中南米の人権侵害と『死

の軍団』

三三五号（一九九一年五月）

沖田健吉氏（中国短期大学教授）「エンジニアリング産業

の産業組織と企業内部組織」

三三六号（一九九一年六月）

斎藤秋男研究参与「『生活教育社』の成立・活動停止・回復

をめぐる——『中国革命と『生活教育』運動』

続稿(その二)

澤野 徹所員「ミュンヘン大学図書館所蔵L・フォイエル

バッハ遺稿」

三三七号（一九九一年七月）

石渡貞雄研究参与「我流ペレストロイカ考」

三三八号（一九九一年八月）

矢吹芳洋特別研究員「高校社会科の『再編』と世界史必修

をめぐる」

三三九号（一九九一年九月）

赤羽新太郎所員「現代日本企業の本格的国際化とマイクロ

・エレクトロニクス革命に関する1考察」

三四〇号（一九九一年一〇月）

池田博行所員「悔い多き人生」

三四一号（一九九一年一月）

三輪芳郎研究参与「昭和史の一断面(上)」

三四二号（一九九一年二月）

斎藤秋男研究参与「陶行知・現地研究の旅・その節目に

一九九一年一〇月・陶誕辰一〇〇周年記念

活動の参加報告」

四 その他の活動

(1) 文献、資料の収集と整理

1 文献、資料の収集

所員の希望をもとに統計資料を中心とした文献、資料の購入と収集を行なった。以下、購入の一例を掲げておく。

(1) Webster's Third New International Dictionary

Max Weber Critical Assessments (1~4)

(3) 「新和英大辞典（第四版）」

2 文献資料の整理

収集した文献の登録（グループ研究助成や個人研究助成な

どで購入した文献を含む）、蔵書のチェック（現物とカードの照合）、雑誌の製本を行なった。

3 寄贈本の登録、整理

三輪芳郎研究参与より蔵書の寄贈を受け、その登録と整理を行なった。

なお、慢性的な書架スペースの不足により、神田分室の「中央公論」を生田図書館と北海道短大図書館に移管した。

(2) コンピュータの利用

1 ソフトの購入

以下のソフトを購入した。

(1) Rupo ⇄ MS-DOS ファイルコンバーター

(2) ミニ書院 ⇄ MS-DOS ファイルコンバーター

(3) エキスパート

(4) Power-Graph (グラフ作成ソフト)

(5) Lotus 1-2-3 (Version up)

2 パソコン環境の補修・改善

ハードディスクを修理するとともに、メニュー、バッファ、各種ツールを導入した。